

航空、脱炭素関連を拡販

長崎に営業・研究開発拠点新設

ステンレス・高合金流通大手のイノウエグループ、スクリュープレス鍛造の東洋鍛工は1日、長崎市内に営業所と研究開発拠点を開設した。入居したのは、長崎3大学や県、市との連携を通じて新事業創出・育成を目指すながさき出島インキュベータ（DIFLAG）。産官学連携により県内の注力産業である航空機関連や、脱炭素関連へ販路拡大、生産性向上に向けた鍛造金型でのAI活用などを図る。

ウエグループの管工機材商社の竹本とともに長崎に拠点を設けるに至った。

DIFLAGでは2フロアを営業所とR&Dセンターとして活用。産官学連携における接点と位置付け、拡販を進める。東洋鍛工の壘（もたい）英一社長は「これまで1カ月かかる金型設計を数日でできる仕組みを作り、顧客に提案できれば」と話す。

1日開催した開所式では、イノウエの井上浩樹社長が「材料から型打鍛鋼品、機械加工品までのサプライチェーンを県内で組み、航空機関連に加えて脱炭素関連のビジネスを3社で伸ばしていきたい」と意気込んだ。壘社長は「今月中に航空部品のファーストロットを生産開始したい。世界的な航空機大手が視察・見積もりのため当社に来社するなど、引き合いの強さを感じている」と強調。竹本の木村賢児社長は「長崎の仕事も徐々に増える中、拠点設立は悲願だった。県内には長年培われた製造業のノウハウがある。われわれと一緒に広がれば」と呼びかけた。

また、航空機器部品加工品の供給などで当社を工のウラノの小林正伸社長は「イノウエや東洋鍛工とは3年前から強固にしたい」と挨拶のご縁。材料、鍛造製した。



左からイノウエの井上社長、東洋鍛工の壘社長、竹本の木村社長

販路を拡大している。県内での受注が増えていることから、国内でも数少ないスクリュープレス鍛造を手掛けるパートナー企業、東洋鍛工、イノ

